

# 今とこれからの暮らしを 広告から考えてみる

年末年始は、これからを思い描くべき

2018年が始まって、もう一カ月半ほど経ってしまいましたね。私の職場である大学では、旅立つメンバー（卒業生）を見送り、新メンバー（新入生）を迎え入れる準備の時期です。正月が明けたらすぐにおとそ気分は消えて、「あれ？」と思うくらいすっきり日常モードになりました。

でも年越しは、除夜の鐘の音を聞きながら、新しい年の抱負を考えたり、おみくじに来年の運を託したり、そしてもっと先のことまで、ひとりり、家族で、仲間とワクワク思い描ける、一年の中でも貴重な瞬間なのかもしれません。皆さんは2018年をどんな年にしたいですか？

今回は昨年末の新聞広告から、今とこれからの暮らしの捉え方を探ってみたいと思います。

年末の広告から、それぞれの世代の「今」を眺めてみる

年末の新聞を見ると、高齢者に向けた広告が他の時期と比べても多かった印象があります。第一線を退き次の人生を過ごす方々が求めている暮らし方について、企業がどう捉えているのかを理解できた気がしました。

その中でも、小学館の「小学一年生（1）」は、なるほどと思いました。以前は子どもから「買って」とおねだりしていたモノが、現在は「孫とつながるひみつ道具」に成り得ることを、ドラえもんや四次元ポケットになぞらえて高齢者に伝えています。かわい

い孫とつながりたいと思う高齢者は多いでしょう。三世代それぞれの気持ちやドラえもんがつかないでくれているのも、ロボットやAIが生活に浸透し始めている現代を象徴しているかのよう感じます。少子高齢社会が進むこれからは、こんな変化が家庭の

中にもっと増えてくるのでしょね。

そうかと思えば、高齢者の暮らし方の変化を感じさせる広告もありました。特にピースポットの「世界一周グランドクルーズ（2）」は、長期の時間とお金を利用できる人、特に高齢の方を対象にしていると感じました。いつか旅行したいなと思いつつ、仕事や家事・子育てに追われた時期が終わった方々にとって、その夢を叶えることも魅力的なプランですし、昨今の高齢者のアクティブさも見えてきます。

高齢者に向けた広告ではありませんが、NTTドコモの「ドコモ未来ミュージアム（3）」では、子どもたちが考える未来予想図の絵画コンクール表彰作品を見ることができ、応募総数14万310作品。どの作品も未来を捉える視点がユニークであり、のびのびと表現しています。ヒトは将来のことを考えるときは楽観的になる

う人生の3ステージを、同世代が年齢とともに一斉に進んでいました。一方で、私の世代（第2次ベビーブームあたり）では、寿命が100歳近くに延びる替わりに、「仕事」のステージが親世代よりも長くなるそうです（それは嫌ですね）。さらに、今20歳以下の世代では100年以上生きる率がもっと高くなり、学び・仕事・人間関係・資産の変化が激しくなり、年齢とステージは一致しなくなるそうです。そのため、不確実性に対処する能力を持つことが避けて通れない課題となるようです。ただ、長寿になることは、厳しいことばかりではなく生き方の多

様化も進むので、一人ひとりにとっての理想的な人生を過ごせるという可能性も高くなります。

この本に書かれている生き方で大事になってくるのは、未来の世の中をイメージして、今の自分の暮らしを試行錯誤すること、なのかもしれません。

先ほど紹介した広告でドラえもんがつかないでいた世代は、これからはもっと多くの世代となる可能性もありますし、多世代の他人が同居するシェアハウスによる新しい家族の形がさらに多くなっていくかもしれません。動き方も多様になることで転職・転業も多くなりそうですし、その合間に学び直した

り、休暇を取って世界一周の旅をしたりするということも、どの世代でもでき得ることになるでしょう。ただ、試行錯誤しながら進むことを楽しめること、となかなか大変そうな人生です。そこは、ユニークな未来予想図を描いた子どもたちのような想像力と表現力を持って行動していくことで、ワクワクする未来にしていきたいですね。

ところで、みなさんの今年のおみくじ、どうでしたか？ 私は数年ぶりに大吉を引きました！ 今年はいいことがありそうです。

今日の授業はここまで。

参考・引用文献  
[1] リンダ・グラットン他 (2016) LIFE SHIFT (ライフ・シフト) — 100年時代の人生戦略 [Kindle版], 東洋経済新報社

私の親世代（第1次ベビーブームあたり）は、「教育→仕事→引退」とい

傾向があるらしく、準備や行動をなかなかしづらいそうです。ですが、これらの作品のような想像力と表現力を成長させていけば、ワクワクする未来が待っているかもしれませんね。皆さんも子どもの時、どんな未来になるのかわかりづらくないかと思いませんか。高齢の方々が子どもの時に思い描いていた未来に、今の世界は果たしてなっているのでしょうか？！

長寿で多様なこれからの生き方に必要なことは

年末から年始にかけて読んだ本では、これからの時代は長寿化が進み、100年生きる方も多くなることで、人生のステージが増えること述べられていました[1]。その本ではこれからの世界や生き方について次のように予測されています。



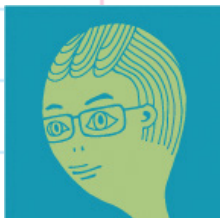
1 「小学館」2017年12月3日 朝刊 全道版 全5段



2 「ピースポット」2017年12月3日 朝刊 全道版 全5段



3 「NTTドコモ」2017年12月10日 朝刊 全道版 全15段



ふくだ ひろとし  
福田 大年

札幌市立大学デザイン学部専任講師（教育学修士・造形修士）

1975年、北海道生まれ。デジタルコンテンツ制作会社の起業などに携わった後、2008年より現職。専門はインタラクティブデザイン、デザイン教育。最近はアイデア生成、遊びのデザイン、地域産業サポートなどに取り組む。学会、広告団体、キッズデザインなどでの受賞歴あり。

